

第77回日本弱視斜視学会総会 共催セミナー

視聴方法 **オンデマンド配信**

日程 **2021年7月12日(月)～7月26日(月)**

演者 **木村 亜紀子 先生** 兵庫医科大学 眼科学教室 准教授

重症筋無力症

—眼科医・視能訓練士の大きな役割を忘れていませんか?—

重症筋無力症 (myasthenia gravis: MG) は眼科医にとっては「脳神経内科の病気」で、眼症状のみの MG は神経内科医にとっては「眼科領域の疾患」なのであろう。確かに、眼瞼下垂や複視のみの眼筋型 MG は、眼科医が積極的に診断、治療に当たるべき疾患と考えるべきである。超高齢化社会にある我が国において、加齢性眼瞼下垂と MG による眼瞼下垂の鑑別、MG による斜視と Sagging eye syndrome に代表される加齢性斜視の鑑別ができるのは、唯一眼科医のみであり、眼科医の果たす役割は大きい。また、複視は日常生活の質 (QOL) を大きく損ねるものであり、フレネル膜プリズムやオクルージョン膜などの視能訓練士による保存的治療は、QOL の質を保ちつつ加療に当たる上で忘れてはならない重要事項である。

2014 年の MG 診療ガイドラインは、眼筋型 MG の診断に適している。副作用のないアイスパック試験や上方注視負荷試験は簡便でクリニックでも施行可能である。また、甲状腺関連自己抗体が陽性の MG では、眼症状が MG によるものか、甲状腺眼症によるものかを判断する必要がある。眼筋型 MG の診断・治療における注意点を、自験例を用いて解説する。

共催：第77回日本弱視斜視学会総会／株式会社コスミックコーポレーション